

年頭のごあいさつ



本庄市長 吉田 信解

新年明けましておめでとうございます。令和3年の新春をご健勝にてお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、中国武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界に拡大。日本国内でも、1月中旬に最初の感染者が発生して以降、徐々に感染者が増加し、4月、政府が本県を含む7都府県に対し、「緊急事態」を宣言。全国的な宣言解除後も、8月には第2波、11月には第3波と、引き続き、予断を許さない状況となっております。

こうした状況の中、本市はこれまで、専門的な知見を有する保健所や医師会等と連携しながら、市民の皆さまへは、市ホームページや広報ほんじょう、防災行政無線等を通じ、迅速で正確な情報提供に努めてまいりました。また、経済活動を含めた支援につきましても、第1次、第2次を合わせ、総額約98億円（国の特別定額給付金約78億円を含む）による支援のほか、生活困窮者支援や社会福祉協議会によるさまざまな支援など、実情に応じた包括的かつ、きめ細やかな支援を通じ、市民生活の安定、経済活動及び教育活動の早期回復に努めてまいりました。

本年も引き続き、関係機関と連携しつつ、生活環境に大きな変化が生じる際や、市内感染状況に変化があった際には、その時点の正確な情報を市民の皆さまにお知らせしてまいります。また、国・県の動向を注視しながら、適宜、経済的支援を検討してまいりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

市民の皆さまにおかれましても、「3つの密（密閉・密集・密接）」を避けつつ、「5つの場面（①飲酒を伴う懇親会等、②大人数や長時間に及ぶ飲食、③マスクなしでの会話、④狭い空間での共同生活、⑤居場所の切り替わり）」に十分注意をしながら、感染予防に努めていただきますようお願い申し上げます。そして、感染に対する偏見や差別を許さない人権尊重の地域社会づくりにもご協力をお願いいたします。

さて、こうしたコロナ禍にあっても、私たちは前を向き、歩んでいかなければなりません。昨春秋以降、新たにオープンした「新インフォメーションセンター（愛称・テラスバ本庄）」や、「本庄早稲田の杜ミュージアム」、また、土木学会選奨土木遺産に認定された「寺坂橋（中央2丁目）」や、世界かんがい施設遺産に登録された「備前渠用水路」、さらに、テレビでも取り上げられた歴史や文化、人物や施設など、市内には「魅力あふれる宝」が数限りなく散りばめられております。

こうした宝を生かし、さらに、本市が有する3つの優位性、①「速さ」（新幹線など高速交通網で希望の地に速く行ける）、②「広さ」（雄大な景色と高い空のもと、都心より低価格で広い家や庭の取得が可能）、③「ゆとり」（速さや広さ、災害の少なさ、安全で豊富な食材、子育て・教育環境の充実等から感じる、心の余裕）を最大限に生かし、広く効果的にPRし、新しい時代を先導する都市として、多くの方に移住、定住先として選んでいただけますよう、取り組んでまいります。

一方で、進行する少子化・高齢化に対応し、持続可能で安全安心な地域社会を実現するためには、SDGs（※）の理念に基づき、市民、事業者、行政の一層の協働、さまざまな既存制度や事業の見直し、ICT化の推進など、取り組まねばならない課題が山積しております。

本年は、埼玉二没後200周年を迎える記念の年でもあります。「世のため、後のため」、足元をみながら、これまでの取り組みにさらなるチャレンジを重ね、市政の進展に全力を傾注してまいります。どうぞ皆さまの、より一層のお力添えをいただきたくよろしくお願い申し上げます。結びに、市民の皆さまのご健康とご多幸をご祈念申し上げます、新年のごあいさついたします。

※SDGs・・・「持続可能な開発目標」の略。2015年に国連のサミットで採択された2030年までに達成すべき17の目標